

リュツォ・ホルム湾周辺の海氷状況

2019年10月8日
国立極地研究所 南極観測センター

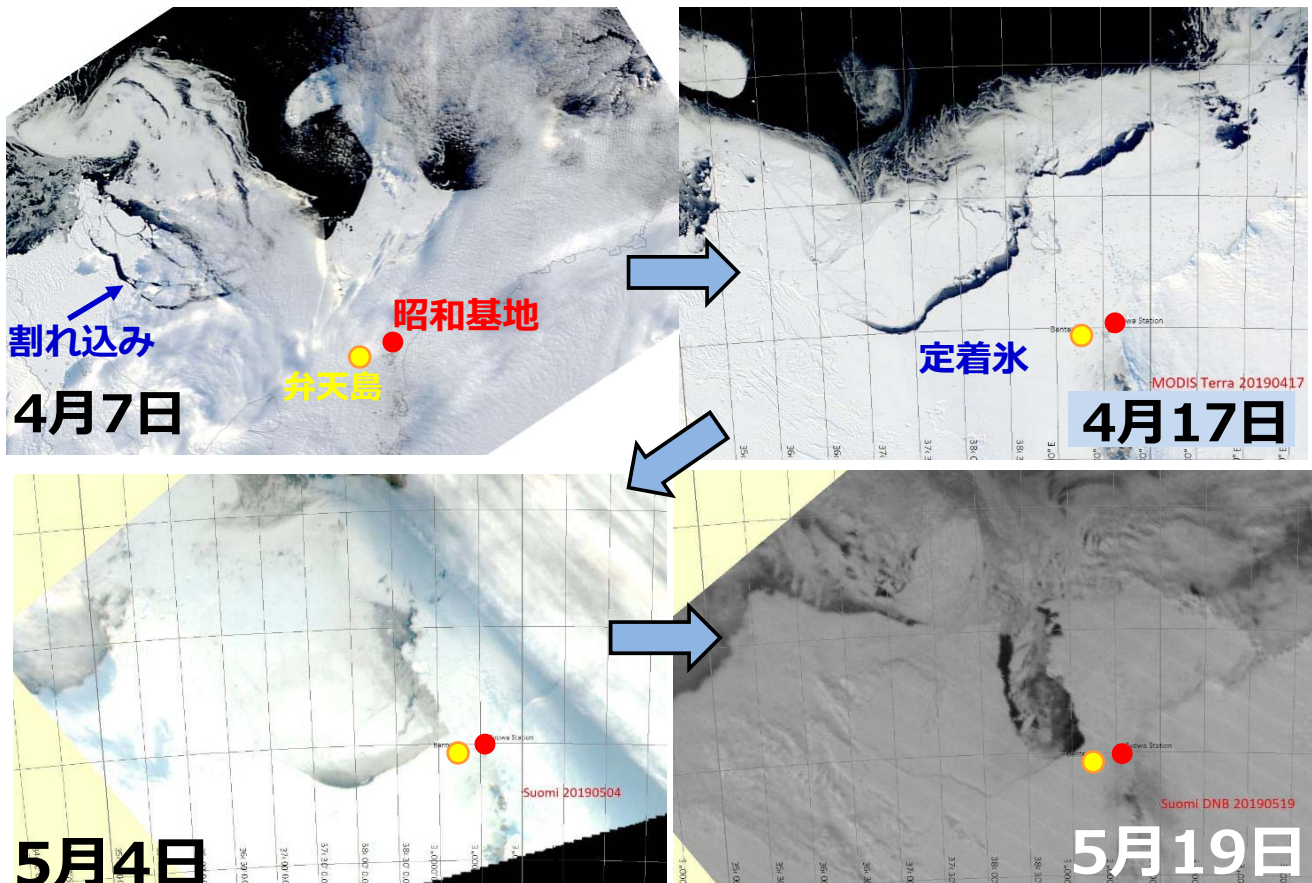
第60次越冬隊および国立極地研究所は、越冬期間中の野外活動や第61次隊の夏期行動計画の参考とするため、衛星画像や昭和基地における目視観察、気象・潮汐観測データにもとづいて海氷状況を監視している。

2019年4月以降の氷状の特徴

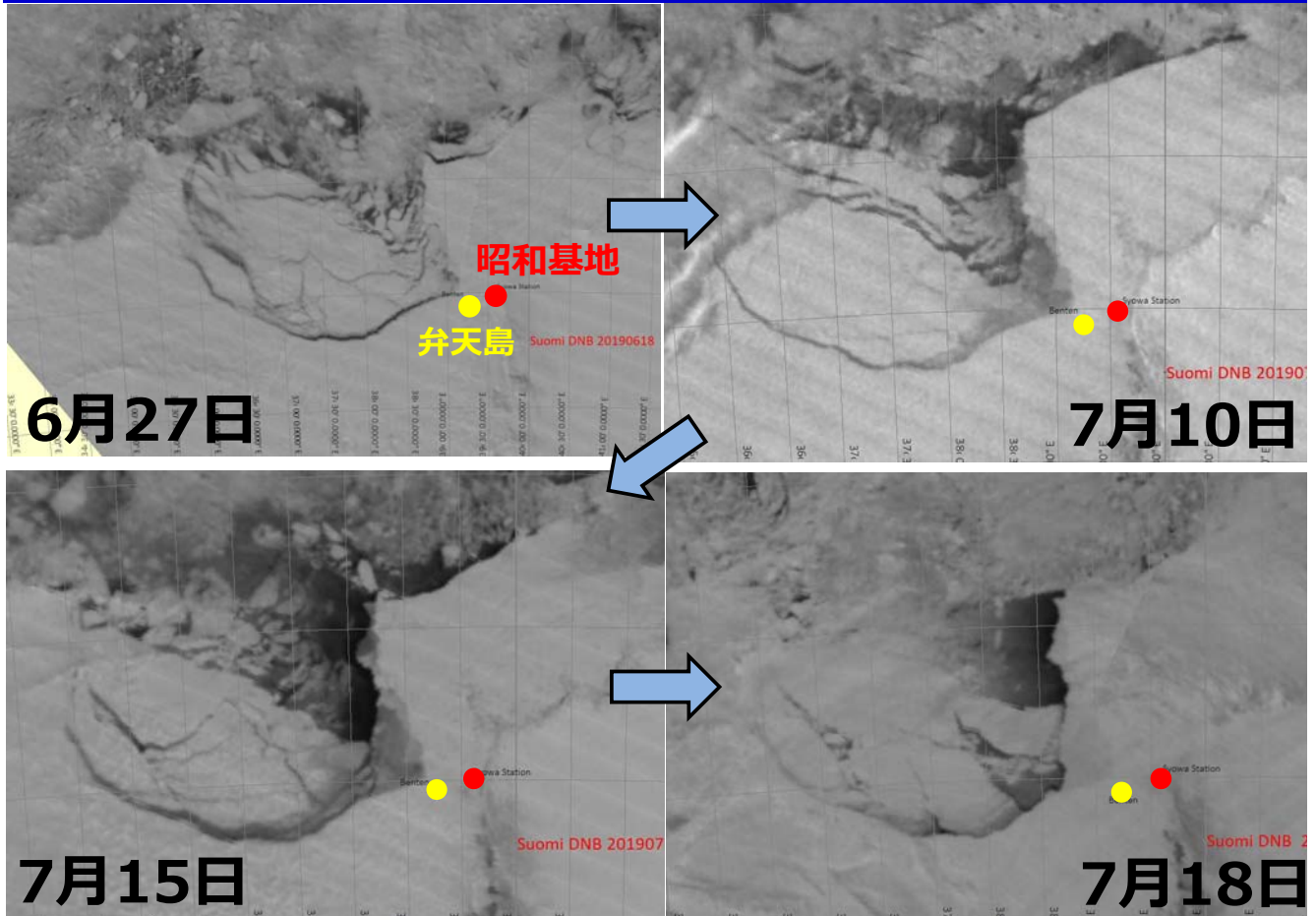
- 4月上旬、リュツォ・ホルム湾内定着氷域で広範囲の**割れ込み**が見られた。
- 4月下旬以降、割れ込みが進行して**弁天島付近**に達した。
- 割れ込み領域は、ブリザードによる氷盤の西側への吹き寄せ、東側で水面が広がる状況が繰り返され、7月下旬頃から**東部（弁天島の西）の凍結**は見受けられるが、10月上旬時点では凍結していない。
- 昭和基地 **北の浦周辺**の海氷は10月上旬時点で**安定**している。

第60次越冬隊による氷状調査結果を共有し、海氷監視を継続する。

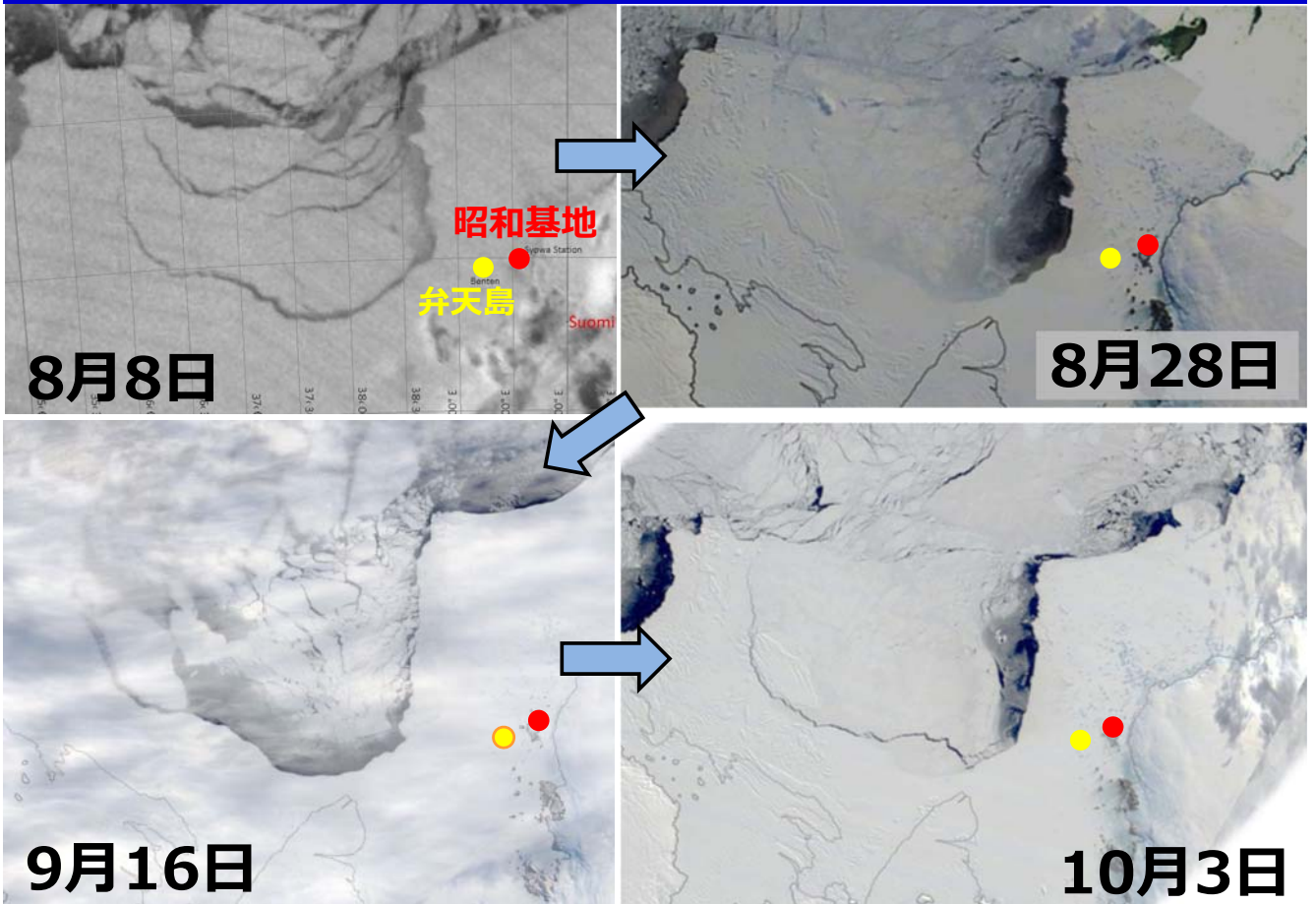
4月～5月の定着氷の状況（衛星画像）



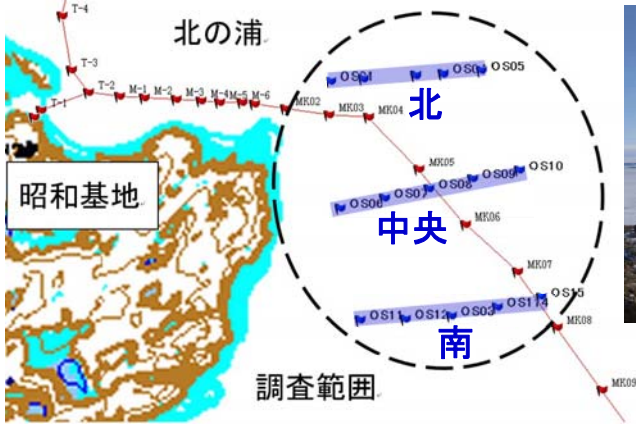
6月～7月の定着氷の状況（衛星画像）



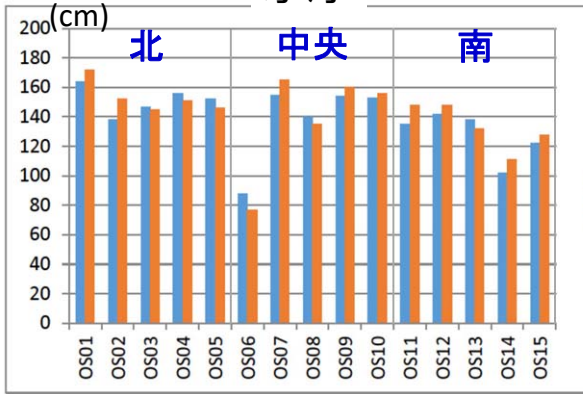
8月～10月の定着氷の状況（衛星画像）



60次越冬隊による氷状調査 (8月22日、9月21日)



氷厚



積雪深

